事業報告

ロビー展「昭和 100 年　テレビ受像機の 100 年展」開催報告

久松　洋二 *

Report on the Special Exhibition“100 Years of the Showa Era: 100 Years of Television Receivers”Held in the Lobby

Hisamatsu Yoji

Abstract：As part of its centennial commemorative projects for the Showa era, the Ehime Prefectural Science Museum will host a series of themed exhibitions showcasing the science and technology of the Showa era in a relay format over the course of a year, from the end of 2025 through 2026. The first exhibition theme selected is“100 Years of Television Receivers.”The evolution of television technology and the diverse changes in design evoked a sense of nostalgia for those who lived through the Showa era, while for younger generations who had never used these products, the unfamiliar designs and technologies sparked scientific curiosity. The exhibition helped foster dialogue and interaction across generations.

キーワード：昭和 100 年，企画展，テレビ受像機，愛媛
Key words：100 Years of the Showa Era, Special Exhibition, Television Receivers, Ehime

はじめに

令和 7 年は昭和の年号に換算して昭和 100 年であり，また令和 8 年 12 月 25 日は昭和改元から満 100 年にあたる．内閣官房は令和 7 年 1 月に「昭和 100 年」関連施策の推進について取りまとめ，施策推進の基本的な考え方を表明した[1)]．そこには，令和を生きる我々は，昭和の先人たちが築いた「豊かさ」の土台に立ち，その叡智と努力に学びながら，歴史の流れの先にある，我が国の新たな姿・価値観を模索していくことが必要であるとし，「昭和 100 年」を契機に昭和を顧み，先陣の躍動に学び，昭和の記憶を共有することは平成以降の生まれの世代にとっても新たな発見のきっかけとなり，また，世代を超えた理解・共感を生むとともに，リスクや課題に適切に対処しながら，幸せや生きがいを実感でき，希望あふれる未来を切り開く機会，と記された．内閣官房「昭和 100 年」関連施策推進室が立ち上げたポータルサイト[2)]には，記念事業等の関連施策や関連イベントの情報や発信が行われ，それによると国[3)]，都道府県[4)]，政令指定都市[5)]，市町村[6)]，民間等[7)]で推進された事業数は，令和 8 年 2 月末の集計で，数えで昭和 100 年であった令和 7 年に行われたイベント等も含め，実に 900 件にも及んだ．

当館も科学博物館として，昭和 100 年を機会に，科学や技術の発展と文化の変容を整理することで，今を生きる人々が我が国の 100 年の積み重ねを振り返り，昭和の力強さを実感し，次代へ立ち向かう英気を養うとともに，幅広い世代での交流を育むことを目的として企画展示を開催することにした．昭和改元以降の我が国の科学や技術の発見や変遷を収蔵資料で辿る構成としたものの，当館の開催会場の都合もあり，時期ごとにテーマを変えるリレー形式で 1 年間展示することになり，令和 7 年 12 月から開催した．第 1 弾テーマはテレビ受像機の 100 年を振り返るものである．

本稿は，当館で開催した昭和 100 年第 1 弾「テレビ受像機の 100 年展」（表 1）の企画と開催状況について報告する．

表 1．ロビー展「テレビ受像機の 100 年」．

タイトル	テレビ受像機の 100 年
会　期	令和 7 年 12 月 1 日㈪から令和 8 年 3 月 19 日㈭まで
会　場	愛媛県総合科学博物館　常設展示 3 階ロビー
観覧料	常設展示チケットが必要

＊愛媛県総合科学博物館　学芸課長
Chief, Curatorial Division, Ehime Prefectural Science Museum

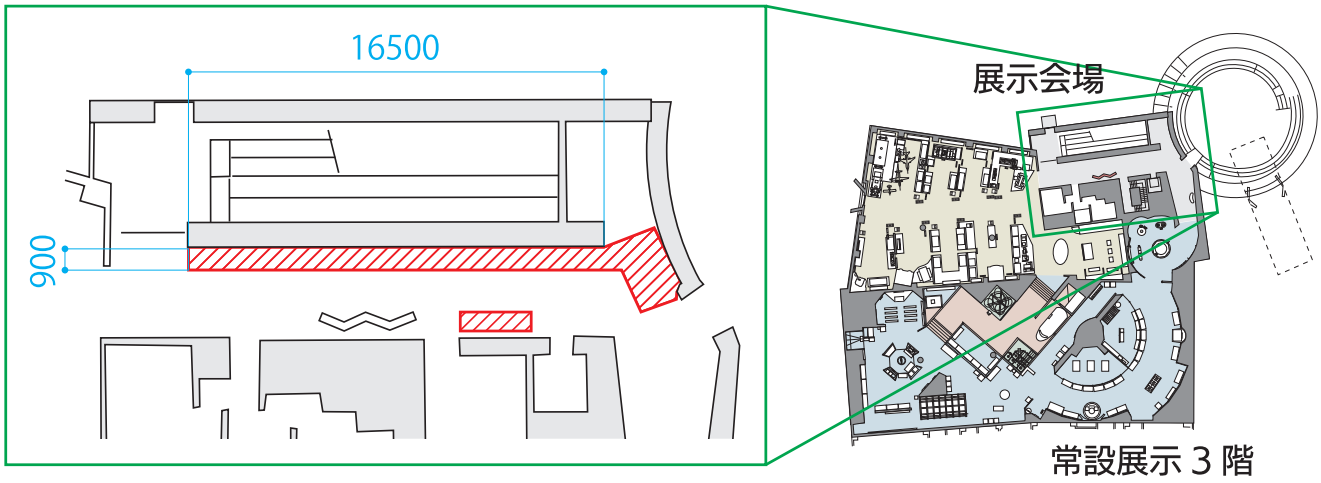


図 1．展示会場の位置．常設展示 3 階のロビーに展示を設営した．赤斜線枠内に資料を設置した．

開催概要

愛媛県総合科学博物館は自然史，理工系の総合博物館で，過去には 20 世紀の科学を概観する企画展示の開催経験もある[8]．100 年間の科学の成果等を紹介することが可能な量の収蔵品を有しており，昭和 100 年の記念事業は，一般に目にすることが少ない収蔵品を広く県民に周知して博物館活動を理解してもらう良い機会になると考えられた．しかしながら，当館が有する自然，科学技術，産業の各分野において，令和 7 年から 8 年にかけて昭和 100 年とは別視点の企画展示の計画・準備がすでに進行しており，昭和 100 年企画で企画展示室を使用できなかった．そのため，昭和 100 年企画の会場は常設展示室のロビーを利用することになった（図 1）．当該場所は主にパネル巡回展等を開催する施設の廊下であり，面積的に強い制約があるため，多くの資料を公開することができない．そこで，昭和 100 年という事情を利用して，いくつかのテーマに分けた期間限定展示をリレー形式で 1 年間展示し，年間で昭和の科学や技術の変遷を表現する開催手法を取ることにした．

最初のテーマは科学技術が担当することになり，テレビをテーマに展示することにした．昭和改元の日に技術者の高柳健次郎がブラウン管を応用した電子式テレビ受像機の送受信実験に成功した[9]という事実と，昭和を過ごした世代と現代の若い世代では製品としてのテレビ受像機に対する思い入れが異なることから，昭和からの 100 年を振り返る良いテーマとなると考えたためである．自分たちの慣れ親しんだ製品に触れる昭和世代と，その製品を見たことがない現代の若い世代が，テレビ受像機のサイズ，機能，デザインの変遷に触れることで，世代間で視点の違いが垣間見えて新鮮な感動を分かち合えると思われた．

展示構成

展示するロビーは壁面と廊下しかなく，観覧者が回遊して資料を見る演出はできず，1 方向に歩いて見学する構成となる．壁面の長さは 16,500mm で，来館者の通行と展示の観覧を両立させるには，展示スペースは壁面から高々 900mm 程度の展開となる．そのため，時系列を主体にいくつかのセクションに分けての構成となる．今回，テレビ受像機の変遷は大きく 4 つのセクション（表 2）に分けて展示することにした．

100 年のテレビ受像機の変遷を概観する展開は次のとおりとした．最初に昭和改元時の高柳実験の解説，当初のテレビ受像機の要であったブラウン管の構造や種類の解説とテレビに関連する部品の紹介をし，戦後間も無く製造されたテレビ製品の展示，材質やデザイン，機能等から当時のテレビ受像機の姿を比較して展示した．続いて家庭の中心に座った大型のテレビの代表的なデザイン変遷を紹介するとともに，大型テレビと小型テレビの需要の違いを紹介するため，ポータブルテレビや 14 インチテレビを年代順に機能やターゲットユーザーを比較した．最後にテレビデオやフラットブラウン管など，大型テレビの多機能化，高性能化の流れと，液晶テレビの登場以降のユーザーが求めた機能について解説した．ポータブルのニーズがスマートフォンやタブレットの番組視聴機能に移行して，テレビ専用受像機ニーズの減退と合

表 2．ロビー展「テレビ受像機の 100 年」の 4 つの章立て．

	展示章立て
1	テレビ受像機の起こりと初期のテレビ受像機
2	テレビは家庭の中心に
3	小型化，個人化への機能付加
4	ブラウン管の発展と新しい形

表3. ロビー展「テレビ受像機の100年」展示資料一覧.

	資料名	内容	西暦年	元号	昭和年	WDH/WD (mm)
第1章　テレビ受像機の起こりと初期のテレビ受像機						
1	日本電気　送信管　8F66RA	放送局電波送信管	1955頃		30頃	
2	日立　高周波工業用送信管	放送用電波送信管	1963		38	
3	神戸工業　高周波工業用送信管	放送用電波送信管	1957		32	
4	真空管	各種7点　箱有				
5	ブラウン管		不明			
6	ブラウン管表示機		不明			
7	大型撮像管	放送局用白黒撮像管	1950年代		30年代	
8	小型撮像管	手持ちカメラ用撮像管	不明			
9	ソニー　トリニトロン管	トリニトロン管	1960代		40年代	
10	ナショナル　T14-C1S	真空管テレビ　大量生産	1958		33	440 460 440
11	ゼネラル　TS-177	真空管テレビ　12ch返還前	1958		33	580 600 915
第2章　テレビは家庭の中心に						
12	サンヨー　16-F1700M	真空管テレビ　コンソレット	1965頃		30代末	710 330 840
13	ナショナル　TH20-A1	家具調	1975		50	950 550 920
14	ナショナル　TH18-C16	リモコン収納　斬新スイッチ	1981		56	635 450 400
15	ズバコン	アナログ家電カタログ書籍				300 210
第3章　小型化，個人化への機能付加						
16	ソニー　8-301J	直視トランジスタ世界初	1960		35	220 270 225
17	ソニー　5-303	マイクロテレビ	1962		37	200 200 150
18	ソニー　5-303パッケージ	輸出対象	1962		37	250 365 195
19	ソニー　5-202	世界席巻	1965		40	195 200 150
20	三菱　6P-125	マイクロテレビ	1962		37	150 200 180
21	ソニー　KV-1310	トリニトロン初代	1968		43	450 400 370
22	ゼネラル　14P-370A	赤テレビ	1974		49	460 420 335
23	日立　C14-420	赤テレビ	1980		55	490 420 335
24	ナショナル　TH15-M9VR	黒テレビ	1986		61	380 420 380
25	ナショナル　TR-509Aa	ポータブルテレビ　屋外	1979		54	170 290 270
26	ソニー　KV-6X2	ポータブルテレビ　小型	1984		59	190 300 140
27	ソニー　KV-9PR1	ポータブルテレビ　中型	1986		61	220 320 215
28	シチズン　液晶テレビカタログ	あ・る・くビジョン	1987		62	210 297
29	ソニー　ビデオウォークマンカタログ		1990	H2	65	420 297
30	ソニー　ビデオウォークマンカタログ	用途提示	1992	H4	67	420 297
第4章　ブラウン管の発展と新しい形						
31	日立　テレビカタログ	大型	1990	H2	65	420 297
32	ビクター　テレビカタログ	大型	1990	H2	65	210 297
33	パナソニック　テレビカタログ	小型から大型まで	1990	H2	65	210 297
34	パナソニック　TH-21ZU10	テレビデオ　大型	1997	H9	72	510 500 500
35	ソニー　KW-28HDF7	フラット　ワイド　大型	1999	H11	74	760 520 500
36	シャープ　LC-30HV3	液晶　ワイド	2002	H14	76	1000 340 610
37	シャープ　LC-30HV3箱	注意書きの多さ	2002	H14	76	1460 440 720
38	シャープ　液晶ディスプレイカタログ	プラズマディスプレイ	2002	H14	76	420 297
39	ソフトバンク　カタログ	スマホでテレビ	2012	H24	86	420 297

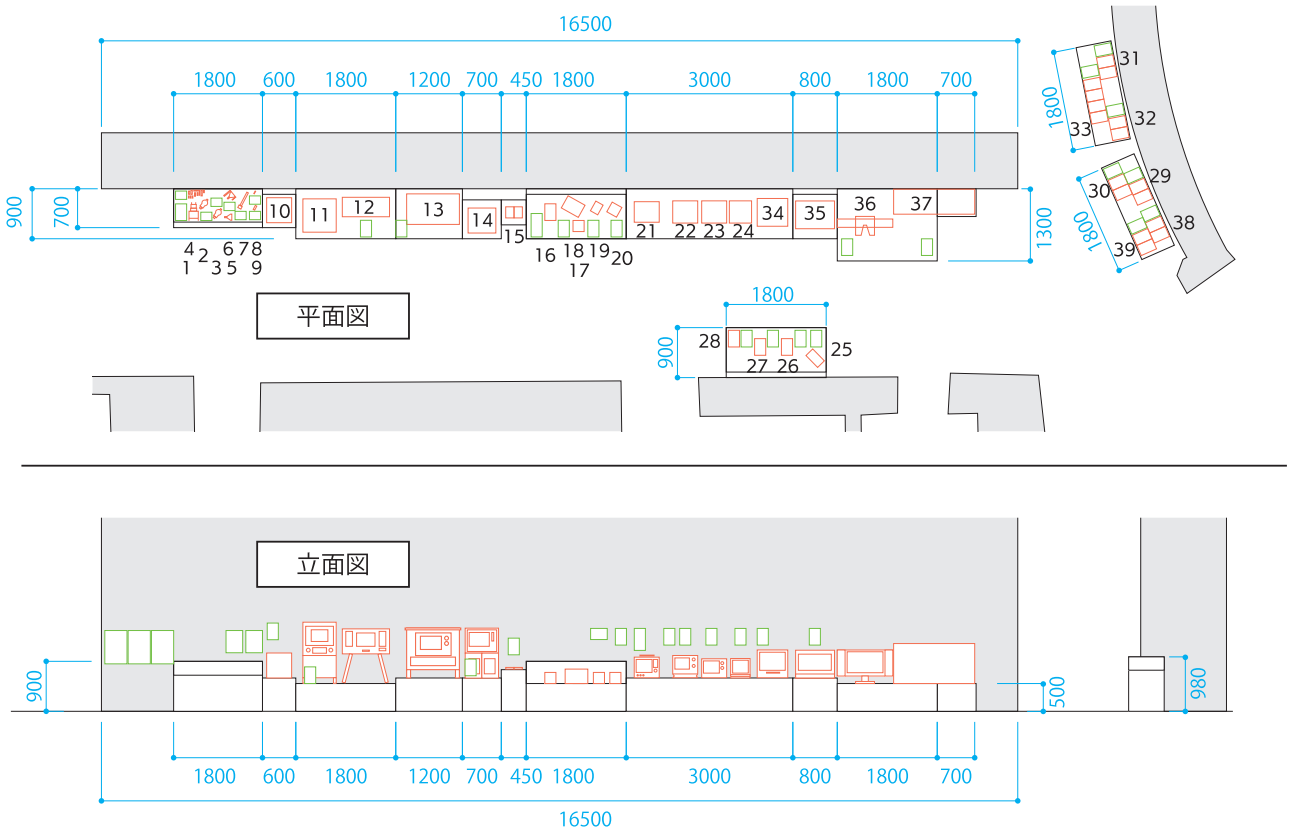


図 2.　展示会場の平面図と立面図．灰色が展示室建物，黒線が展示ケースまたは展示台，橙線が展示資料，緑線がグラフィックス，キャプション，黒数字は表 3 の資料番号を表している．

わせて，大型，高機能化といったテレビ受像機の技術発展の流れから外れていく経緯を資料で確認した．

展示内容と演出

テレビ資料は 1 点ずつが大型であるため，展開を満たす資料を厳選し，表 3 のとおり 39 種 45 点とした．資料の配置は図 2 のとおりである．ポータブルテレビや部品資料はケースの中で展示し（写真 1，2），14 インチ以上のブラウン管テレビは展示台に載せてアクリルケースを被せて展示した（写真 3）．一部の大型テレビは付属のテレビ台に載せて展示し，当時の家庭でのテレビの設置を思い起こせるようにした．また，書籍やカタログを展示することで，当時のデザインや文化を感じられるように努めた．今回の展示資料の設置方法では資料 1 点ずつに当てる照明器具がなく，天井の照明と展示ケース内の照明のみの利用となった．本来は会場内で資料を照明により浮き立たせるなどの演出をしたかったが会場の制約で叶わなかった．冬季の開催であったため，夕方に日が傾くと照明のない部分が暗くなりすぎる難点もあった（写真 4）．当館ロビーにおける展示の限界であった．

展示解説文や資料のキャプション（表 4）については，特に高齢世代に読みやすいように，サイズと文字のポイントともに大きくした（写真 5）．資料ごとの解説文も A5 または A4 サイズのキャプションに 24 ポイントの文字で表記した．文章量によってテンプレートから溢れた解説は，文字サイズや字間で調整せずにキャプションサイズを変形し，可読性を優先させた．発売当時の製品価格がわかるものは表示するとともに，高卒，大卒の国家公務員初任給も併記して，製品の価値を実感しやすくした．さらに当時の世相を伝えるため，資料の製造年に関連する科学技術成果や文化的な出来事を資料解説に加えた．

開催結果とまとめ

一般にテレビ受像機の意匠は発売時期ごとに大きな特徴がある．展示資料で実際にテレビ番組を見ていた世代は，当時のテレビ番組や製品への個人な思い入れを強く想起することで，テレビを語りたくなる感情を引き起こされ，資料を見て懐かしむ声を会場でよく聞かれた．会場で見た印象では，世代の違う大人同士でテレビのスタイルや懐かしの番組を語り合う会話を交わす姿をよく見かけた．一方で小学生など年少世代がテレビ受像機という製品に関心を示さない場面も意外に多く見かけた．番組の視聴はスマートフォンやタブレット端末の機能によることが増え，テレビ受像機に製品としてのあこがれを抱かなくなったことを反映しているのかもしれない．他

表 4.　ロビー展「テレビ受像機の 100 年」解説タイトル一覧.

	グラフィックス・キャプション　タイトル	サイズ
1	「昭和 100 年とは」	A2
2	テレビ受像機の 100 年	A2
3	ブラウン管とは	A3
4	世界初の映像の伝送・受信実験	A3
5	白黒テレビの送信管	A4
6	真空管	A5
7	高周波工業用送信管（神戸工業）	A5
8	高周波工業用送信管（日立）	A5
9	ブラウン管	A5
10	撮像管（大型）	A5
11	撮像管（小型）	A5
12	トリニトロン管	A5
13	ナショナル真空管テレビ	A4
14	チャンネルが 11 までの真空管テレビ	A4
15	コントレットタイプ	A4
16	家具調テレビ	A4 変形
17	チャンネルリモコン	A4
18	ズバコン？！	A4
19	テレビ局　開局年	A4
20	SONY 初のテレビが世界初	A4 変形
21	世界最小・最軽量テレビ	A4
22	ポータブルテレビは日本製品の独壇場	A4
23	マイクロテレビ	A4
24	日本初のカラー放送	A4
25	トリニトロンカラーテレビ	A4 変形
26	VHF と UHF	A4
27	パーソナルなテレビ	A4
28	パーソナルなテレビその後	A4
29	テレビは必要な場所に	A4
30	テレビとビデオの合体	A4
31	アウトドアにもテレビ	A4
32	ブラウン管ポータブルテレビの終焉	A4
33	ブラウン管に合わせたデザインの限界	A4
34	液晶がポータブルテレビを激変	A4
35	ワイドテレビの登場	A4
36	大型液晶テレビ	A4 変形
37	パッケージに見る大型テレビの構造	A4
38	ブラウン管テレビデザインの挑戦	A4
39	テレビのサイズとニーズの違い	A4
40	大型テレビは高性能のテレビへ	A4
41	液晶が可搬性の意味を広げた	A4
42	ブラウン管と液晶の方向性の差	A4
43	液晶ともう一つの薄型テレビ	A4
44	テレビ受像機はどこへ向かうのか	A4



写真 1.　会場は展示を監視する職員がいないため，小型の真空管等部品はケースに収めて展示した.



写真 2.　ポータブルテレビも展示ケース内に設置した.



写真 3.　基本的に大型のテレビにはアクリルケースを被せて展示した．一部テレビは専用テレビ台に載せて，当時の設置状況をイメージできるように展示した.



写真 4.　会期は冬場で夕方の室内は，照明の当たらない箇所が暗くなった（画像中央付近）.

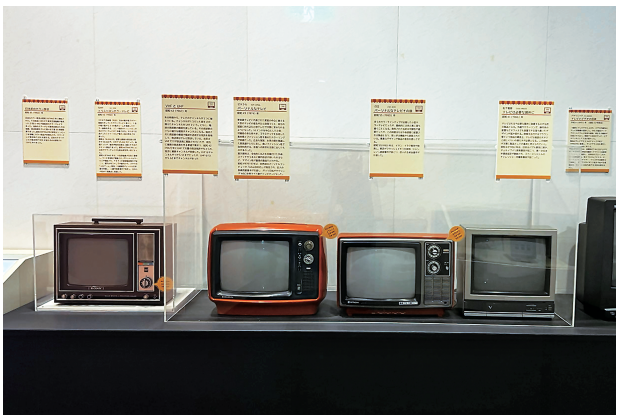


写真 5. グラフィックスやキャプションの文字は 24 ポイントで表示し可読性を高めた．そのため，パネルサイズは大型になった．

に古い工業製品のレトロ感から，意匠や製品サイズに関心を持つ若い世代の存在も見られた．

会場で回収したアンケートによると，時系列でテレビ受像機を紹介したことやテレビの技術面に関心を示したのは 30 代以上に集中した．製品を見た経験やテレビ番組の思い出を書き記したのも同じ世代だった．自分の懐かしさと子が初めて触れる製品に対する関心との対比を楽しんだ子育て世代の意見も多かった．20 代からは，技術の知識があるだけで実際に製品を目にする機会がなく，今回初めて見ることができたとの喜びを書いたものも見られた．10 代は昔のテレビの姿や形，大きさが想像の範囲外でビックリしたとの感想が述べられた．テレビ受信機という製品をイメージできなくなりつつあるのかもしれない．昭和の製品が若者に目新しさを与えたことで，ものづくり教育の一つとして古い家電製品に触れる手法の可能性が示唆される．年少世代のテレビ受像機への関心が薄れたとはいえ，親世代からかつてのテレビへの姿や想いの説明を受けることは，ファミリーラーニングであり世代間の交流でもあるといえよう．

おわりに

愛媛県総合科学博物館では，昭和 100 年を記念する展覧会の第 1 弾として「テレビ受像機の 100 年」を開催した．展示会場の制約によって，大規模な資料展開はできなかったものの，テレビ受像機の代表的な製品を時系列かつサイズや機能でまとめたことにより，テレビ受像機の 100 年を概観できた．「箱型」のテレビを実際に見ていた世代には，製品としてのテレビ受像機に深い思い入れがあることが確認されたが，「薄型」もしくは機能としてのテレビ視聴に慣れた世代は，大型テレビや小型化を達成した当時の技術やデザインに共感はしなくなったものの，珍しさ目新しさを感じる機会を提供できた．テレビ受像機の資料は世代を超えた交流を引き起こすことや，製品から技術を読み解く来館者を確認することもできた．

当館のリレー形式で開催する昭和 100 年第 2 弾展示は「カメラ技術の 100 年」である．今回の「テレビ受像機の 100 年」の開催結果を参考にして，カメラ製品の技術や意匠が昭和の力強さを来場者に伝え，世代間の交流を促進させる展示になるようつなげていきたい．

参考文献

1)「昭和 100 年」関連施策関係府省連絡会議　内閣官房 https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/showa100nen/index.html（2026.4.14 確認）

2)「昭和 100 年」関連施策とは　内閣官房「昭和 100 年」関連施策推進室「昭和 100 年」ポータルサイト https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/showa100nen/portal/facility/（2026.4.14 確認）

3) 国における「昭和 100 年」関連施策一覧　内閣官房「昭和 100 年」関連施策推進室「昭和 100 年」ポータルサイト https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/showa100nen/portal/pdf/country_list.pdf（2026.4.14 確認）

4) 都道府県における「昭和 100 年」関連施策一覧　内閣官房「昭和 100 年」関連施策推進室「昭和 100 年」ポータルサイト https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/showa100nen/portal/pdf/prefecture_list.pdf（2026.4.14 確認）

5) 指定都市における「昭和 100 年」関連施策一覧　内閣官房「昭和 100 年」関連施策推進室「昭和 100 年」ポータルサイト https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/showa100nen/portal/pdf/designated_city_list.pdf（2026.4.14 確認）

6) 市区町村（指定都市除く）における「昭和 100 年」関連施策一覧　内閣官房「昭和 100 年」関連施策推進室「昭和 100 年」ポータルサイト https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/showa100nen/portal/pdf/municipalities_list.pdf（2026.4.14 確認）

7) 民間団体等における「昭和 100 年」関連施策一覧　内閣官房「昭和 100 年」関連施策推進室「昭和 100 年」ポータルサイト https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/showa100nen/portal/pdf/municipalities_list.pdf（2026.4.14 確認）

8) 愛媛県総合科学博物館 年報 平成12年度．2001，p.29.

9) 高柳健次郎が世界で初めてブラウン管による電子表示に成功 公益財団法人高柳健次郎財団ウェブサイト https://takayanagi.or.jp/sub/takayanagi.html（2026.4.14 確認）